

強者の戦略

今回の問題を解いた時、数分で即座に解けた人とウツと詰まってそれきりだった人に二極化したのではないかと思います（勿論そういう問題を敢えて選んでいるのですが…）。その差は一体何なのでしょう。知識量の差ならもはやどうしようもないですが、本問に限って言えばマニアックな知識は必要ありません。むしろ東京大学はそのような知識偏重な学習態度を嫌っているところがあります。そしてその姿勢は今日に至るまで一貫して変わっていません。大切なのは、冷静に問題の本質を見極めて自分のもっている知識を適切に運用することです。そこを勘違いしてしまうと、必要な知識は揃っていて運用方法が間違っているだけなのに、更に知識を積み上げようとするという間違った対策に走ってしまうことになります。

今回出題した問題も、知識量よりも知識の運用が正答への鍵を握るものでした。

問 次の英文を読み、以下の設問に答えよ。

Children reveal an instinct for freedom in everything they do, but especially when they play. Everyone knows how much they love to play and how completely engrossed they become in games. Playing is what () is all about, and children give themselves up to it whole-heartedly. By forbidding games and suppressing the free expression of the child's natural functions (and of his or her potential abilities and skills), parents risk interfering with the process of self-realization, and opposing the play of nature itself.

Parents concerned about their child's progress at school, or seeking to develop a special talent, may succeed in excluding play from his or her life. Would such a "far-sighted" policy lead to the formation of the child's personality and self-fulfillment? The few known exceptions, such as Mozart, whose father locked him in his room as a child and made him study music for hours on end, merely confirm the general rule. It will never be known how many people have been irremediably damaged through being thus prevented from giving expression to the free play of nature during their childhood.

(1) 文中から適切な1語を選んで空所を埋めよ。

(2) 下線部“the general rule”を次のような英文に表現するとすれば、空所にどのような1語を埋めればよいか。その1語を記せ。

The efforts of parents to cultivate special talents in their children at the () of play do not usually help produce grown-ups with well-developed personalities.

本問は和訳問題でもなければ要約問題でもありませんから、全文を精読する必要はありません。また、闇雲に呼んだところで正当に辿り着くこともできないでしょう。特に(1)のような問題では、そもそも何を探して読むべきかが分からないと手の打ちようがないのです。

強者の戦略

(1)は、Playing is what () is all about の空所に本文中の 1 語を入れる問題でした。恐らくこれを見た殆どの人が、この問題が語法の問題であることに気付けたでしょう。A be what B is (all) about は直訳すると「A は B の全てである」となり、意識して「A は B にとって最も大切だ」と訳すことが多いです。原義に近づけるならば、A と B はほぼ同義 (A is equal to B) と考えても良いでしょう。本問の場合、playing「遊ぶこと」とほぼ同義とされる 1 語を選ぶことになるのですが、その「1 語」というのが鍵になります。空所の位置に入るのはもちろん名詞です。更に言えば、空所の後ろに is があるので単数形しか入れることができません。

試しに本文中に登場した単数形もしくは不可算の名詞を書き出してみましょ。但し、代名詞や固有名は省略します。また、同語反復になりうる語句 (play など) も省略します。

instinct	freedom	everything	Everyone
expression	process	self-realization	nature
progress	school	talent	life
policy	formation	personality	self-fulfillment
father	room	child	music
rule	expression	childhood	計 23 個

これらを 1 個ずつ空所に入れて意味を確認してゆくのは大学受験生のすることではありません。文脈を把握し、その流れにふさわしい 1 語を入れなければなりません。かといって最初から精読するのは時間がかかってしまいます。ここは、英文の大原則に立ち戻りましょ。逆接などの特別な表現がない限り前後の文は抽象→具体の関係になります。そこで、前文を見てみよう。

Everyone knows how much they love to play and how completely engrossed they become in games.

「彼らは遊ぶのが非常に大好きで、ゲームとなると完全に夢中になってしまうことは誰もが知っている。」

「彼ら」は「遊ぶ」のが非常に大好き、という関係に注目ましょ。「彼ら」の正体は、更に前文を見れば「子供達」だと分かります。「子供達は遊ぶのが大好き」が転じて「遊びは子供の全てだ」になったのだろうと推測できれば一気に候補が絞れます。上に挙げた名詞の中で子供を表す語は child と childhood の 2 つしかありません。

ここまで来た時点で、「ええっ、結局どっちが正解なの？」と戸惑うのか「ああ、じゃあ答えはこれしかないな」とニヤリと笑えるのが勝負の分かれ目です。この場合、答えは childhood しかありえません。何故なら、child はふつう無冠詞では使えないからです。一方、childhood「子供時代」は抽象概念なのでふつう無冠詞で使います。

(2)に移りましょ。the general rule を表現した英文の空所を埋めろという指示ですが、「文中から」という文言がないので、自分で考えて適語を答えなければなりません。

強者の戦略

The efforts of parents to cultivate special talents in their children at the () of play do not usually help produce grown-ups with well-developed personalities.

【訳】遊びを（ ）にして自分の子供の特別な才能を育てようとする親の努力は、ふつうは十分に発達した個性をもった大人を作り出す手助けにならない。

この文を見て、下線部分が前文の次の下線部に対応していることに気付けたでしょうか。

Parents concerned about their child's progress at school, or seeking to develop a special talent, may succeed in excluding play from his or her life. Would such a "far-sighted" policy lead to the formation of the child's personality and self-fulfillment?

訳：自分の子供の学校での成績が心配で、特別な才能を伸ばしてやりたいと思っている親なら、子供の生活から遊びを取り除くことに成功するかもしれない。そのような「先見の明ある」子育てによって子供の個性が形成されて自己達成につながるのだろうか。

更に絞り込むと、at the () of play が excluding play from his or her life に対応しています。ここから読み取れるのは、play「遊び」が取り除かれるという主旨の語を空所に入れれば良いということです。候補としては at the **cost** of A, at the **expense** of A, at the **price** of A, at the **sacrifice** of A などがあり、いずれも「A を犠牲にして」と訳します。それでは、どれを書いても正解になるのでしょうか。東京大学は模範解答を公表していませんから、正確なところは分かりません。ですが、文脈を考慮したときに最も適切な語はどれかと考えると、1つの語に絞ることが可能です。太字になっている語の意味を確認してみましょう。

cost:	an amount that has to be paid or spent to buy or obtain something
expense:	the cost incurred in or required for something
price:	the amount of money expected, required, or given in payment for something
sacrifice:	an act of slaughtering an animal or person or surrendering a possession as an offering to a deity

今回の場合、犠牲になるのは play「遊び」ですので、金銭的な意味合いをもつ cost や price は文意にそぐいません。また、sacrifice は犠牲となるものに肯定的な価値を与えていますが、親は play に対してむしろ否定的なイメージをもっていると思われるので、この場合は不適切です。それでは expense はどうかと言いますと、実はこの語も cost の一種なのでやはり金銭的な意味合いをもちます。ですが、expense は金銭以外のものの損失を比喩的に表現することもできますので、この語が最も適切と言えます (cost も金銭以外のものを表すことが出来ますが、こちらは金銭や人命以外だと時間や労力となります)。

最後に訳例を提示しておきます。

強者の戦略

【訳例】

子供はやること全てにおいて自由本能をあらわにするが、これが顕著に現れるのは遊ぶ時である。子供は遊ぶのが非常に大好きで、ゲームとなると完全に夢中になってしまうことは誰もが知っている。遊びは子供時代において最も大切であり、子供は心の底からそれに夢中になるのだ。ゲームを禁止し、子供がもつ天性の機能（そして子供の潜在的な能力と技能）から出てくる自由な発想を抑えつけることによって、親は（子供の）自己開発の進展を妨害し、天性の働き自体に逆らうという危険を冒していることになる。

自分の子供の学校での成績が心配で、特別な才能を伸ばしてやりたいと思っている親なら、子供の生活から遊びを取り除くことに成功するかもしれない。そのような「先見の明ある」子育てによって子供の個性が形成されて自己達成につながるのだろうか。子供の頃に父親に部屋に閉じ込められ、何時間も音楽をずっと勉強させられていたモーツァルトのような例外がごくわずかに知られているが、それは単に一般論の正しさを裏付けているに過ぎない。どれだけ多くの人の子供時代にこのような形で天性の自由な働きの発現を妨げられ、回復不能なまでに傷つけられてしまったかは決して明らかにはならないだろう。

いかがだったでしょうか。確かに語彙や語法の知識は必要でしたが、強者を志す貴方にとって決して難しいものではなかった筈です。ですが、ここで求められていたのは1文1文の意味を正確に読み取る洞察力と、基本的語彙に対する深い知識なのです。それを見誤ると、間違った学習を積み重ねることになりかねません。

それでは、今回はここまで。また次回お会いしましょう。